



こうちこどもファンド

平成27年度 審査会 報告書



平成27年6月21日(日) 13:30~17:00

高知市保健福祉センター 3階大会議室



【 目 次 】

開会（13：30～） P2

- ☆開会のあいさつ 高知市副市長 吉岡 章
- ☆審査員等の紹介
- ☆審査の流れ

応募団体によるプレゼンテーション・質疑応答（13：40～） P5

- ☆NSP(ナンカイ サバイバル プロジェクト)おたすけ隊
- ☆一宮家おもてなし隊
- ☆瀬戸東町1・2丁目元気キッズ
- ☆高知南高校QOLの会
- ☆Food Treasure Hunter in Namegawa !
- ☆APA(あったかハートで安心・安全プロジェクト Asahi)守るんジャー

こども審査員による一次判断（14：40～） P17

審査員による公開審議（14：55～） P18

- ☆応募団体への審議
- ☆提案など
- ☆大人審査員から一言

審査結果発表（16：15～） P28

- ☆審査結果発表
- ☆こどもファンドアドバイザー・こども審査員サポーターからの感想発表
- ☆こども審査員からの感想発表
- ☆審査委員長からの講評



【 開 会 】

★開会のあいさつ

高知市副市長 吉岡 章

皆さんこんにちは。高知市副市長の吉岡でございます。

まず、平成27年度のこうちこどもファンドの審査会にこのように多くの皆さまにご参加いただくとともに、6つのグループの子どもたちに参加していただきまして、本当にありがとうございます。今日は頑張っていたきたいと思います。

さて、こうちこどもファンドですが、早稲田大学の卯月盛夫先生に「ドイツのミュンヘンで、素晴らしい子どもたちがまちづくりに取り組んでいるんですよ」というご紹介を受けて、平成22年11月にミュンヘンを訪問し、その取組を視察し高知方式の仕組みを作りました。この取組は将来の社会を担う・高知を担う子どもたちが、「自分たちのまちを良くしたい」「こんなまちがいいな」「こんなまちになってもらいたいな」という思いを実現するためのものです。

この審査会は、子どもが審査するのですが、今年度は小学生が5名、中学生が2名、高校生が4名の合計11名の子どもたちが審査員をします。子どもたちの視点で、活動の目的と内容がきちんと合っているのか、地域のためにどうなるのかを見ていただくことになっています。また大人の皆さんにも、大人の視点でフォローしていただきたいと思っております。子どもが審査員というのは、全国でも非常に珍しいので、先進的な取組として視察も多いと聞いております。

もうひとつ大事なことが、この活動は高知市で2,000万円の資金を注ぎましたが、高知の多くの企業や個人の方から、この3年間で約800万円をいただいております。そこから活動の助成金に充てています。それと、今、胸にバッジを付けていますが、募金していただくと、これらのバッジ2つをもらえます。そのお金がまた子どもたちの活動の財源になっていきますので、ぜひ協力をよろしくお願いしたいと思います。

今日は6つのグループの子どもたちが発表するのですが、日頃から自分たちが「こんなことをやりたいな」という思いを、力いっぱい元気に発表していただいて、これからの高知のまちづくりに繋げていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で、開会にあたりまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



★審査員等の紹介

こども審査員

<u>家古谷 優 (けごや まさる)</u>	高知中央高校3年
<u>松岡 陽 (まつおか ひなた)</u>	小津高校1年
<u>西田 友紀 (にしだ ゆき)</u>	岡豊高校1年
<u>大原 正裕 (おおはら まさひろ)</u>	高知学芸高校1年
<u>押川 真希 (おしかわ まき)</u>	附属中学校3年
<u>大原 弘靖 (おおはら ひろやす)</u>	附属中学校2年
<u>田部 祥一郎 (たべ しょういちろう)</u>	第六小学校6年
<u>宇賀 みくも (うか みくも)</u>	旭東小学校6年
<u>森本 向日葵 (もりもと ひまり)</u>	大津小学校6年
<u>松下 藍花 (まつした あいか)</u>	旭小学校6年
<u>青木 晴楓 (あおき はるか)</u>	はりまや橋小学校4年



大人審査委員

<u>審査委員長 卯月 盛夫</u>	早稲田大学社会科学部・社会科学総合学術院教授
<u>審査副委員長 古谷 純代</u>	高知サンライズホテル 専務取締役
<u>審査委員 梶 英樹</u>	高知大学地域連携推進センター地域コーディネーター特任助教
<u>審査委員 松原 和廣</u>	高知市教育長
<u>審査委員 坂本 導昭</u>	高知市市民協働部部長
<u>審査委員 山川 瑞代</u>	高知市こども未来部部長

サポート役

<u>こども審査員サポーター 川元 雅一</u>	(高知市教育委員会学校教育課 指導主事)
<u>こどもファンドアドバイザー 畠中 洋行</u>	

協力

NPO法人要約筆記高知・やまもも (要約筆記)
高知県聴覚障害者協会 (手話通訳)



★審査の流れ

- ①応募団体のそれぞれに、助成申請した活動内容について公開プレゼンテーションをしてもらいます。
(持ち時間は3分間)
- ②各応募団体のプレゼンテーションが終了するごとに、審査員との質疑応答の時間を設けます。
(5分間)
- ③公開プレゼンテーションと質疑応答の結果をふまえ、こども審査員 11 名が、各応募事業について「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」のいずれの項目に該当するか、一次判断を行います。
- ④一次判断の結果をもとに、助成をするかしないか、こども審査員と大人審査員が、公開で審議を行います。「もう少し質問がある」「もうちょっと!」にシールが貼られている団体に対して、審査員から再度、質疑応答の時間を設けます。
- ⑤公開での審議後、こども審査員 11 名が、助成するかしないかについての最終判断を行い、こども審査員の過半数、6 名以上が助成すると判断した場合に助成が決定します。
- ⑥審議結果については、公開の場で発表します。



【 応募団体によるプレゼンテーション・質疑応答 】

★NSP (ナンカイ サバイバル プロジェクト) おたすけ隊

～まもれ、^{ふるさと}高知 ^{いのち}自らの生命をまもり、我らの地域を救う Nankai Survival Project～

●南海中学校のマスコットキャラクター「かいりゅうくん」も来てくれています。

<現状について>

●南海中学校区津波浸水予想図によると、津波の深さが深くなり、私たちのほとんどの地域は、浸水してしまいます。30cm で避難行動が困難になり、1m でほとんどの人が亡くなると言われています。

●東日本大震災が発生した時、大津波警報が出ているにもかかわらず、ほとんどの人が避難しませんでした。逆に、津波見物に行った人もいたそうです。

このままでは、南海大地震が発生した時、多くの犠牲者が出てしまいます。

<昨年度の活動について>

●昨年行ったのは、避難場所一覧を実際に足を運んで撮影しました。そして、地域に配布し、初めての校区一斉避難訓練を行いました。1,000 人を超える人たちが参加してくれ、「私たち子どもが動けば、地域が動いてくれる」ということを実感しました。

<今年度の活動について>

●今年は新たに、昨年ではできなかった保育園・小学校の家庭の避難場所を調べて、避難訓練を行う予定です。

●様々な場所に出かけて行って、行動することの大切さについて発表させていただきました。この時、困ったことがありました。お年寄りとの接し方・会話の仕方が分からなかったのです。何かしてあげなければという気持ちで、訪問していたことに気がつきました。会話しているとお年寄りは、たくさんを知っていて、色々なことを教えてくれました。このことから、学ぼうとする姿勢で訪問しなければならないということに気がつきました。これからもお年寄りからたくさん学ぶことができると思うので、教えていただこうと思いました。

●私たちの校区には、全国でも有名な桂浜があり、多くの観光客の方々が訪れます。ここで、高知の素晴らしさと、災害に備えることの大切さを訴え、チラシを配布しました。私たちはこのような活動を通して、坂本龍馬の志を受け継いでいきたいと思えます。

<最後に一言>

まもれ、高知（ふるさと）自らの生命（いのち）をまもり、我らの地域を救う N・S・P（ナンカイサバイバルプロジェクト）。今後、NSP の活動を通して地域とふれあい、たくさんの人から学び、私たちの地域をより良くしていきたいと思えます。

<質疑応答>

【西田委員】

保育園・小学校への避難訓練もされるとありましたが、どこの保育園・どこの小学校なのか、目途はたっていますか？



【NSP】

まずは、学校近くの保育園・小学校へ行っています。これからは、もう少し広げていって、地域と触れ合っていきたいと思っています。

【西田委員】

あと、もう1つ質問させていただきたいのですが、8月に草刈等を地域の方と一緒にやるということで、お年寄りの方々も参加されるようなのですが、暑い時期ですので熱中症対策などはされていますか？

【NSP】

特にしていないので、これから気をつけていきたいと考えています。

【大原正裕委員】

11月から12月の間にポスター・チラシを作って地域の方々に配布するとありますが、8月の地域の合同避難訓練を行った際にまとめた名簿にある人たちに配るということでいいですか？

【NSP】

地域全体の人に、自転車で回って配布をします。

【大原正裕委員】

では、8月の地域の合同避難訓練を行った際に、避難してきた人たちの名簿をまとめるとありますが、それはどういったことで行うのですか？

【NSP】

これからも避難訓練を行っていききたいので、参加された方がまた次の年に参加されたかどうか比較ができるように行っています。

【青木委員】

2年目ということで、去年とは違う新しい取組など考えていることはありますか？

【NSP】

これから、「にわか」というのを地域の人の前でして、触れ合っていきたいと考えています。

【田部委員】

全員中学3年生ですが、来年以降活動を続ける場合はどうしますか？

【NSP】

また学校で呼びかけをして、1年生・2年生にも入ってもらいたいと思っています。

【家古谷委員】

2点質問があります。チラシの配布を自転車で行うとおっしゃっていましたが、手渡しで行うのかポスト投函なのか教えてください。

【NSP】

どちらも行っています。手渡しの場合もあれば、ポスト投函する場合があります。

【家古谷委員】

あと、お年寄りは色々知っているとありましたが、具体的な内容をいくつか教えていただきたいです。

【NSP】

私たちは、お年寄りの家に訪問しに行ったときに、何かしてあげなければという気持ちで行ったので、お年寄りとうまく話せませんでした。話を聞いていたら、どういう風に逃げるか、こういうことは大事だというようなことを聞けました。



★一宮家おもてなし隊

～一宮家はひとつの大家族やき！！～

●私たちは、「一宮家はひとつの大家族やき！！」をテーマに、地域とのつながりを強め、力のある一宮家を目指しています。

●活動メンバーは、一宮中学生徒会執行部をはじめ、コーラス部、そしてこの活動に賛同してくれる一宮中の生徒たちです。

●私たちの住んでいる一宮中校区は、年々一人暮らしのお年寄りが増えてきています。また、地域との関わりが少ないことを知り、このままではいけない、私たちに何かできることがないかと考え結成されました。



<今年度の活動について>

●1つ目は、無限スマイル挨拶運動です。●2つ目は、高齢者施設を訪問します。施設では、今流れているこの曲をみんなで歌ったりします。●3つ目は、地域の児童館を訪問し、小学生と交流します。●4つ目は、日頃私たちが利用させてもらっている地域の公園などの清掃をしたいと考えています。●最後は、地域のイベントへの協力・参加です。●いつかは必ず来ると言われている南海トラフ地震。これまでに起きた大きな地震でも、人々の関わりが強い地域では助かった人がたくさんいると聞きました。いざという時、助け合い、一人でも多くの命を救うためにも、地域の方々とつながり、支え合いながら生きていく地域社会になればいいと考えます。

<最後に一言>

●私たちが目指す地域との関わりとは、すれ違った時に一言でもお互いに挨拶ができる関係です。その目標に向けて、一步一步確実に進んでいけるように頑張りますので、この趣旨を理解していただき、ぜひご賛同くださいますよう、よろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございます…「ちょっと待って～！何かおるで～」「うわ～ひややっこや～」「そうだよ。僕がひややっこだよ。でも今の僕は、顔だけでお洋服を買うお金もないんだ。このままでは恥ずかしくて、イベント活動どころか地元も歩けないよ。」ということで、審査員の皆さん、よろしくお願いいたします。

<質疑応答>

【大原正裕委員】

夏休みに行う子ども会交流についてですが、具体的にはどんなことをするのでしょうか？

【一宮家】

子ども会の人たちに事前にアンケートをとって、去年はやりたいことを募集し、それを生徒会やおもてなし隊で交流しました。しかし、本年度はそれだけではなく、学習面なども教えてあげられたらいいなと考えています。

【大原正裕委員】

あともうひとつ、「飛び出せプロジェクトxα」の参加者募集についてですが、どういう風に呼びかけを行うのですか？

【一宮家】

「飛び出せプロジェクト xα」について先日、一宮中学校で生徒総会を行ったのですが、その担当委員の人が生徒全員に呼びかけをし、今何名か参加の希望者が出てきています。

【宇賀委員】

支出に氷代とありますが、何に使うのですか？

【一宮家】

暑い時期にする作業が多くなるので、参加者に配る飲み物の中に入れてたりします。

【西田委員】

キャラクター制作費とありますが、どなたが製作されますか？あと、大きさの目安はたっていますか？

【一宮家】

作るのは生徒会の中で担当を決めているので、生徒会のメンバーで作ることになっています。大きさは、着ぐるみのような大きさを予定しています。

【西田委員】

あともうひとつ、一宮中学校のコーラス部さんが協力されるということですが、だいたい人数はどれくらいですか？

【一宮家】

コーラス部の部員としては13名です。今こちらで歌ってくれたのも部員の一部です。

【西田委員】

すごくきれいな歌声でした。とてもいいと思います。ぜひ頑張ってください。

【押川委員】

6月の活動の内容でポスター貼り付けとありますが、どこに貼り付けますか？

【一宮家】

これは、無限スマイル挨拶運動で生徒がいきなり実行したらビックリすると思うので、地域にある掲示板に貼ったり、訪問先の高齢者施設や児童館に貼ろうかと思っています。

【森本委員】

清掃活動について質問です。地域の人にも呼びかけると言っていますが、どのようにして呼びかけているのですか？

【一宮家】

地域の清掃なので、その場所をポスターで掲示したり、町内会の方に協力してもらうこともできるので、その方たちに町内の話合いの中で伝えてもらったりしています。

【宇賀委員】

支出に清掃用具とありますが、学校の清掃用具は使ってないのですか？

【一宮家】

学校にも一応あるのですが、それではできないところもありますし、学校で使っている用具も壊れかけなどもあり、学校だけでは足りないので支出として計上しています。

【宇賀委員】

地域側で借り入れできないのですか？

【一宮家】

地域にはまだ呼びかけはできていないのですが、借りられるようであれば借りたいと思いますが、参加人数にもよるので検討します。

【大原弘靖委員】

2月に活動の振り返りとありますが、これからのことも話し合いますか？

【一宮家】

その時に本年度やる活動内容も含め、反省点など話します。



★瀬戸東町1・2丁目元気キッズ

こどもからお年寄りまで仲よく元気なまちづくり
～支え合い助け合えるまちづくりを目指して！！～

<これまでの活動について>

●1年目、野菜作りをきっかけに、楽しい元気な仲間がたくさんできました。初めての体験をたくさんしながら、色々な野菜を作りました。一生懸命作った野菜を、いつも公園掃除をしてくれている老人クラブの皆さんにプレゼントしました。冬には交流会も行い、子どもも大人も「知っているだけの人」から、「声を掛け合える身近な人」になりました。

●2年目、「とどけよう笑顔と元気・ひろめよう仲よしの“わ”」を目標に、元気に活動しました。1年目の失敗は、皆の努力と協力で成功させました。地域の行事に積極的に参加し、元気に盛り上げました。野菜の販売をし、一生懸命作った野菜を地域の方に食べてもらいました。お父さん、お母さんの繋がりは、学校行事でも力を発揮しました。一人暮らしのお年寄りの家を、民生委員さんと一緒に訪問し、声をかけて野菜をプレゼントしました。繰り返し訪問することで、家や顔も覚えて地域のたくさんの方と知り合うことで、お互いが助け合える、安全で安心なまちづくりに繋がっていると思います。活動と行動の輪が広がりました。

<今年度の活動について>

●3年目、支え合い助け合えるまちづくりを目指して、継続できる活動にするために仲間の輪を広げよう。回覧板や友達を誘って一緒に活動してくれる仲間を増やしたいと思います。地域の他の団体とも協力してまちづくりに参加しよう。民生委員さん、町内会、老人クラブ、てくとこサロン、町内にある施設などと協力して、同じ地域に住むすべての人が支え合い、助け合えるまちづくりを目指したいと思います。

●元気キッズは、今年もおいしい野菜を作って、元気に活動します。これまで2年間の活動で築いてきた、仲間や地域とのつながりを元に小さな楽しみが大きな楽しみに、小さな支え合いが地域全体の支え合いになるよう、頑張りたいと思います。



<質疑応答>

【西田委員】

交流会材料代の中に、講師料というものが含まれていますが、講師の方はこういったことを教えてくださいませんか？

【元気キッズ】

交流会の講師の方は、交流会で出すデザートなどの作り方を教えてくださいます。

【西田委員】

あと、Tシャツを作成されるということで、25枚とありますが、これは瀬戸東町1・2丁目元気キッズのメンバーが着られる枚数が25枚ということでしょうか？

【元気キッズ】

元気キッズのメンバーと、そのお父さんお母さんです。

【松下委員】

これから活動をするための工夫などを行っていますか？

【元気キッズ】

ファンドの助成がなくなってからのことですか？

【松下委員】

そうです。

【元気キッズ】

助成が終わってからは、畑の活動を続けていくために、元気キッズで作った野菜を売って、そのお金で苗や種などを買おうと思っています。

【松岡委員】

他の地域の団体と協力したいと言われていたのですが、瀬戸東町以外から子どもたちが参加したいと言っていたら参加はできるものなのですか？

【元気キッズ】

他の地域、例えば3丁目の方が参加したいと言ってくれば、一緒に参加してもらいたいと思います。

【坂本委員】

高齢者の方とは何名ぐらい一緒に交流・活動をされたのでしょうか？

【元気キッズ】

たくさん参加してくれました。



★高知南高校QOLの会

～ エンディングカードで人生の質を高めよう ～

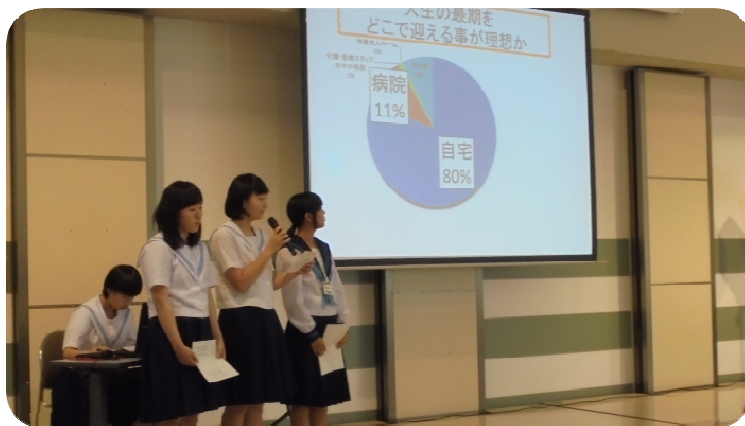
<現状について>

●今、日本は世界が経験したことの無い高齢者社会を迎えています。その中でも、高知県は全人口に占める65歳以上の割合が30%と全国で2番目に高く、全国より10年先行して高齢化が進んでいると言われています。高校3年生の私たちが、40歳になる平成47年には、2.7人に1人が65歳以上の社会になると予測されています。

●認知症患者の割合は、65歳以上が10人に1人、85歳以上が4人に1人で、誰でもなる可能性のある病気です。

●認知症の方たちは、自分の家が分からなくなります。病院で亡くなる人も多し中、

自宅で最期を迎えたいと思っている方はどれくらいいるのかという疑問を抱き、10代から50代の方に「人生の最後をどこで迎えることが理想か」というアンケートをとりました。その結果、人生の最期を自宅で迎えたいと回答した人が、8割を占めています。ところが、現実には死亡場所の8割が病院となっております、それが課題です。



<活動について>

●私たちはアンケートの結果から、すべての人が自分の最期を考えることができ、自分の思いを伝え、そして人とのつながりができるようになるためには、私たちに何ができるだろうと考えました。より良い生き方をするには、自分の望む生き方を示すことが大切であり、自分の望む生き方を示すための手段が必要と考えました。

●自分で自分の最期を決めておくための方法として、私たちは提案します。皆でエンディングカードを作りましょう。ほとんどの人が自宅で最期を迎えることを望んでいる中、高齢者本人の意思が確認できないことから、延命治療が本人の意思とは無関係に行われている現状があります。家族が迷わないためにも、自分で自分の最期を決めておくことが大切です。エンディングノートはすでに世の中で広く知られていますが、臓器提供意思表示カードのように携帯できるサイズで自分の意思を明確にしておけるエンディングカードを作成しようと考えました。これは高知初、全国初の取組です。私たちの発信する取組を広げていきたいと思っています。

<質疑応答>

【家古谷委員】

活動範囲をお聞かせください。南高校周辺のいきいき100歳体操の会場に行くのか、それとも高知市全体に行くのか、教えていただきたい。

【QOL】

私たちが今考えているのは、高知市全体です。

【青木委員】

先ほどのアンケートですが、どのような方に、どれくらいの人数にとったのですか。

【QOL】

中央公園にいた10代から50代の方にアンケートをとりました。人数は97人です。

【宇賀委員】

エンディングカードを作って、どの辺りに配布するのですか？

【QOL】

カードの配布は、高知市の保健所や病院、多くの人に手にとってもらえるような場所に配布したいと思っております。

【田部委員】

全員高3とのことですが、引き続き活動する場合はどうしますか？

【QOL】

私たちはこの活動を通して、エンディングカードを作り上げて、広めていくというのが目標なので、まだこれから考えます。

【大原正裕委員】

12月から作成される報告書ですが、地域の方々には公開されるのでしょうか？

【QOL】

報告書の公開は、今のところ考えていません。

【大原弘靖委員】

支出のDVDですが、報告書に使う分ですか？

【QOL】

DVDは今までの活動の内容と、これからの活動の内容を記録していくものとして使っています。

【松下委員】

9月中旬にカード・ポスター・チラシの作成を業者に依頼する。とあって、支出のところにデザイン料も含まれているのですが、このデザインをQOLの中で補うことはできないのでしょうか？

【QOL】

大まかな所は、作成していますが、細かい所などは業者をお願いしています。

【西田委員】

QOLの会は活動される方はここに書いてあります、6名の方でいいですかね？それと高知市全体で活動されるとおっしゃっていましたが、大丈夫でしょうか？6名で回れますか？

【QOL】

回れるように、今頑張っているところです。

【西田委員】

エンディングカードというのを、初めて聞いてすごくいいなあと思います。カード代1,000枚とありますが、たぶん1,000枚分のエンディングカードを作成されるということだと思います。しかし高齢者だけでもすごい人数いらっしゃるわけで、若い方にも広めていってほしいですし、1,000枚

では足りないのではないのでしょうか？あと、来年も継続して活動される予定でしょうか？

【QOL】

エンディングカードの1,000枚というのは、今のところの考えでは、お試しの感覚です。今後さらにアンケートなどで、改良をしていければいいなと思っている段階です。来年の継続に関しても今は予定しておりません。



★Food Treasure Hunter in Namegawa !

～ 行川の食を他地域に広げる！ ～

●こうちこどもファンド 2 年目の応募団体です。

<昨年度の活動について>

●「行川の食 宝物探し！」をテーマに活動を行いました。主な活動内容は、田植えや、稲刈りなどの農作業体験を通して農業の楽しさを学びました。

●地域の方に行川の伝統料理を教えてもらって、食のカタログを作成しました。1 年間お世話になった地域の方をお招きして、おもてなし会を行いました。



●昨年度の活動では、たくさんの方の笑顔を見ることができました。活動をしている私たちも、やりがいを感じた 1 年でした。

<今年度の活動について>

「行川の食を他地域に広める！」をテーマに活動を行います。活動の目標は主に 2 つあります。

●1 つ目は、他地域にカタログを広める。昨年度はカタログを作成したものの、活用ができず、地域の方にもまだ配布ができていない状態です。なので、今年度はカタログのクオリティーをもっとあげて、印刷会社に印刷を依頼し、行川地域だけでなく他地域にもたくさんカタログの配布をしたいと考えております。助成金だけでは、賄えないところもあると思うので、寄付金なども募っていきたいと考えています。

●2 つ目は、地域の方との交流を深める。昨年度は、おもてなし会の開催で、限られた地域の方としか交流ができませんでした。今年度は地域の敬老会への参加、お茶会などの開催など、地域行事に積極的に参加して、地域の方の笑顔をたくさん見たいと思います。

●昨年度は、「Food Treasure Hunter in Namegawa !」として 1 年間活動してきました。覚えにくいという声が上がっていたので、今年度は「行川くいしんぼ隊」として活動して、地域の方に私たちが覚えてもらいたいと思います。

<最後に一言>

●今年度も 1 年間、活動を頑張ります。よろしくお祈りします。

<質疑応答>

【田部委員】

引き続きカタログを作ると言っていますが、何品追加予定ですか？

【Namegawa !】

昨年度は冬から作る作業から始めてしまったので、夏の物とかがしっかり聞いていなかったのですが、今年度は夏の食を何品か地域の方に聞いて追加し、カタログを作成していきたいと考えています。

【森本委員】

カタログのクオリティーを上げると言っていましたが、どこをどのように上げていくのですか？

【Namegawa !】

昨年度は自分たちのパソコンで作成し印刷まで行いましたが、今年度は印刷会社に依頼してカタログの作成を行っていききたいと考えています。

【家古谷委員】

全体でどれくらいの食材があるか、把握していますか？

【Namegawa！】

昨年度は 10 品くらいだったのですが、まだ地域の方に聞けていない分もあると思うので、その分の何品かを追加していきたいと考えています。

【宇賀委員】

お茶会はどのような内容でやりますか？

【Namegawa！】

昨年度のおもてなし会は昼食会として行ったのですが、今年度のお茶会は、おやつ程度に地域の方と交流が出来るように、おやつを自分たちで作って、提供できたらいいなと思っています。

【青木委員】

おもてなし会にはお年寄りだけではなく、子どもたちも一緒に交流できたりするのですか？

【Namegawa！】

学校全体にも呼びかけて、たくさん子どもと地域の方が繋がれる団体になれるように、やっていきたいなと思っています。

【松岡委員】

活動規模を教えてください。他の地域に広めたいという具体的な事を教えてください。

【Namegawa！】

今年度は、カタログで他の地域に行川を発信していけたらと思っています。

【松岡委員】

カタログは、学校で配布するということですか？

【Namegawa！】

学校だけでなく市役所にも置いてもらうなど、そういう対策を考えています。

【大原弘靖委員】

7月に地域取材とありますが、どのようなことを取材するのですか？

【Namegawa！】

行川には食だけじゃなくて景色の良い所があったり、しょうがなどの特産品の生産もしています。そこへ皆で行き写真などを撮ったりして、カタログに行川の紹介も入れたいと考えています。



★APA（あったかハートで安心・安全プロジェクト Asahi） 守るんジャー ～ あったかハートで安心・安全プロジェクト Asahi ～

●旭小学校のセーフスクール委員会に入っている仲間です。

●セーフスクール委員会では、右側を歩こうキャンペーンで廊下に信号機をかけて安全な歩き方を呼びかけ、怪我を減らす取組をし、右側を歩く人が増えました。

●セーフスクール委員会5年生6名で、学校の中だけではなく、旭のまちで安全で安心して暮らせるために、新しい取組をしていきたいと考えました。

<活動について>

●旭のまちは細い道が多く、自転車の交通量も多く、交通事故に繋がる可能性があります。高知県では、平成26年度は10万件以上の自転車事故が起きていて、8名の方が亡くなっています。●自転車に乗っている人の中には、右端を通る人や傘さし運転、音楽を



聴きながら運転している人など、自転車安全5原則を守ってない人がたくさんいます。●自転車安全5原則を自転車に乗って旭のまちを通る人たちに呼びかけ、自転車事故を減らすための取組をしていきたいと思っています。

<呼びかけ方法について>

●自分たちが自転車の安全な乗り方をデザインしたのぼり旗を作って、安全を呼びかけます。道路に出る時は、全員がヘルメットを被って、ヘルメットを被ることも呼びかけます。

●12月にある旭小のきららフェスティバルで、安全を呼びかけるダンスを発表し、ヘルメットを被って自転車に乗ろうキャンペーンも行います。自転車安全クイズも行う予定です。自転車は人と同じ、右側を通らなければならない。○か×か？—正解は、×です。自転車は車と同じ、左側通行です。

●入学前の保育園や幼稚園の子どもたちが、遊びながら安全のことを知ってもらうために、安全かるたを作り安全を呼びかけていきます。そして、新1年生が安心して登校できるように旭小学校の近くの家に、安全かるたを10組作って、プレゼントしたいと考えています。

<最後に一言>

●私たちの取組は、私たちのまち、旭が、あったかハートで安心安全なまちになる、きっかけとなると思います。力を合わせて取り組んでいきますので、どうぞ私たちの活動に応援をよろしくお願いします。

<質疑応答>

【松下委員】

ダンスは、きららフェスティバルで発表したら、もう他では踊らないのですか？

【APA】

ダンスはその1回だけで、他では踊る予定はありません。

【宇賀委員】

支出で、文房具購入費とありますが、はさみは自分たちのものを使うことはできないのですか？

【APA】

自分たちのものを使うこともあります。

【大原正裕委員】

ポスターを掲示する際、ポスタースタンドを購入されることになっているのですが、ポスター自体、壁に貼ることはできないのでしょうか？

【APA】

壁に貼ることは、できますが…それはしません。

【大原正裕委員】

あともうひとつ、飲料水代として30本の水を購入されるとあるのですが、それは、いつ必要なのでしょうか？

【APA】

活動する際の、水分補給として用意するものです。

【押川委員】

安全を呼びかけるためのダンスとありますが、それは自分たちで作るのですか？

【APA】

曲はダンスに合う曲を探すけれど、ダンスはオリジナルで作ります。

【田部委員】

かるたを保育園や幼稚園に配るとありますが、どこの保育園・幼稚園に配るかなど決まっていますか？

【APA】

旭保育園・愛育会保育園・ポップ保育園・塚ノ原保育園です。

【松岡委員】

活動の内容として、安全について学習するとあって、それは学校で学習するのか、セーフスクールで勉強するのか、決まっていれば教えてください。

【APA】

学校で警察の方に来ていただいて、そこから色々学習していきます。

【松岡委員】

あと、もうひとつダンスの中身が決まっていたら教えてほしいです。

【APA】

まだ中身は考えていません。

【森本委員】

ダンスの中身はいつ頃考える予定ですか？

【APA】

それは、この審査が通ったら考えます。



【 こども審査員による一次判断 】

こども審査員 11 名が「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」の3区分で一次判断を行いました。

こども審査員が審査の際に何を重要と考えるかの“審査ポイント”は、こども審査員に対して行う事前研修会の中で、こども審査員が全員で話し合い、決めた項目を使用しています。

【審査のポイント】

- ①地域にとって必要なこと
- ②チームワークと発表の工夫
- ③計画性



☆一次判断の結果☆

発表 No.	団体名	一次判断		
		いいね!	もう少し質問がある	もうちょっと!
1	NSP(ナカイ ガバ ival プロジェクト) おたすけ隊	●●●●●● ●●●●●●	●	
2	一宮家おもてなし隊	●●●●●● ●●●●●●	●●	
3	瀬戸東町1・2丁目元気キッズ	●●●●●● ●●●●●●	●	
4	高知南高校QOLの会	●●●●●● ●●●●●●	●●	
5	Food Treasure Hunter in Namegawa!	●●●●●● ●●●●●● ●		
6	APA(あったかハートで安心・安全プロジェクト Asahi) 守るんジャー	●●●●●● ●	●●●●●	●

【 審査員による公開審議 】

【卯月委員長】

緊張したかもしれませんが、リラックスしながら、質問が出たらグループで相談しても結構ですので、回答してください。それから、お金の使い道に関する質問については、大人サポーターに回答していただいても結構ですので、よろしくお願いします。

さて、休憩時間中に11人のこども審査員が、一次判断というのをしました。一次判断というのは、これから1時間の議論をするために、途中の段階での判断で、最終的な結果とは違います。もちろん、大きな影響を受けると思いますが、今からの議論をなるべくスムーズに進めるために、現段階で11人の審査員が、各グループについてどんな感触を持っているかということ、大きく3つのグループに分けて判断をしてもらっています。「いいね！」は現段階でとっても良い活動ではないか。「もう少し質問がある」は先ほどは3分の発表、5分の質疑応答ですから、内容によっては完璧に理解していないかもしれないので、最終的な判断をするために、もう少し質疑応答をしたい。それから「もうちょっと！」は現段階では今回助成するにはまだちょっと疑問があるというものです。これからの1時間の進め方は、「もう少し質問がある」「もうちょっと！」という票数の多いものからやっていきたいと思います。先ほどの発表は、平等に各グループ3分の発表、5分の質疑応答の8分しか持ち時間がなかったわけですが、これからは、この判断に基づいて質疑応答をしますので、平等ではありませんので、ご了承ください。

それから、最終的な判断は、11人のこども審査員がするというルールになっていますが、大人審査員というのもあります。大人審査員も、子どもが審査をすることをお助けします。場合によっては、子どもが間違った理解をしているケースも無いとも言えないので、そういう時にはきちんと、これは助成金の趣旨に合わないんじゃないかな、高知市としてはこういう理解であるなど、大人審査員にサポートしていただくことで、大人審査員とこども審査員が議論しながら、各グループに質問するという形で進めていきたいと思います。

APA(あったかハートで安心・安全プロジェクト Asahi) 守るんジャー

【卯月委員長】

さて、今申し上げましたように、「もう少し質問がある」の多いところからいきたいと思います。森本委員、「もう少し質問がある」に入れた理由、質問をお願いします。

【森本委員】

子ども用自転車は、参加する個人が持ってきてもいいと思いますが、それはどう思いますか？

【卯月委員長】

2台の自転車を購入すると内訳にあったのですが、それは必要なものでしょうか？どういった目的なのか、お答えいただけますか？

【APA】

何度も使うので、個人で持ってくるのは難しいので、必要です。

【卯月さん】

なぜ2台なのかな？

【APA】

集会で安全な乗り方と、安全でない乗り方を見せるために使います。

【卯月委員長】

皆の前で乗って見せたりする時に、購入して伝えようということですか？それについて、大人の審査員からも何かありますか？

【坂本委員】

だいたいの目的は分かりましたが、やはりもう少し持っているものを使えないかどうかを、大人サポーターの方にお聞きしたいなと思います。それと、制度的に事務局も、備品についてはどういう風な考え方で助成するのか、併せてお聞かせ願いたい。

【卯月委員長】

では、ルールがあるのなら事務局からお話いただけますか？

【事務局】

備品の考え方でございますが、昨年も少し話が出ていましたが、まずは使用頻度がどれくらいなのかという問題。先ほどのお話ですと、結構使うのかなと感じられます。それと、申請額のだいたい10%程度のものであれば備品としてはいいのではないかという考え方です。ヘルメットについても付属するものですので、やむを得ないかなと思っております。使用頻度と一定の金額については認めているということですので、先ほどのご説明にもありましたとおり、かなりの回数使うということであれば、やむを得ないものとして判断をしております。

【卯月委員長】

分かりました。よろしいですか？

【宇賀委員】

先ほどのプレゼンの内容で、飲料水代について出たのですが、自分たちの水分補給のためならば、各自持参するという形でもいいのではないかと思いますか？

【大人サポーター】

夏の暑い時に練習をするので、水分補給として必要という思いで書きましたが、子どもたちも水筒を持参できますので、できるだけ回数は少なくして、炎天下の屋外でやる時などに少し+ α で買った場合も出てくるのではと思います。できるだけそこは削減して使いたいと思います。

【西田委員】

先程、事務局の方から「自転車に付属するのでヘルメットもかまわない」というようなことだったのですが、自転車2台に対してヘルメットを6個ってというのは数が合うのでしょうか？発表されている段階でヘルメットを付けていらしゃったんですね。あのヘルメットを使ってはダメなのでしょうか？

【卯月委員長】

なぜ2台の自転車に、6個のヘルメットでしょうか？

【大人サポーター】

まず、皆に呼びかけるときは全員被ります。今被っていたのは、学校の備品として置いている分を全部使っているのですが、他にもセーフスクール委員会として20名ほどいます。呼びかける時はセーフスクール委員会の子どもたちにも協力してもらいたいと思っているので、できるだけたくさんの子どもたちがヘルメットを被っている姿を地域の方や、学校の子どもたちにも見せたいなというので、今あるのはこの5個しかないの、+ α としてお願いしています。

【卯月委員長】

いろいろなところでプレゼンテーションをするのに、備品として自転車とあといくつかのヘルメットがあって、プロジェクトに関わっていく子どもたちも変わっていく中で、共通のものを持って、プレゼンテーションをする場で伝えよう、そういう意図ではないかなあと想像しますが。もちろん個人

で持ってこられるものは、持ってきてもらって、それ以外にあった方が活動しやすいという風に僕は理解しましたけれども。

【大原正裕委員】

新1年生に安全を教えるとあるのですが、その時に使われる安全かるたというのは自分たちで作るものでしょうか？

【APA】

自分たちで作る予定です。

【大原正裕委員】

2月の半ばに安全かるたを保育園などにプレゼントする。とあるのですが、その時に渡されたりしないんですか？仮に早めに作られたとして、その時に安全かるたは配布されないんでしょうか？

【APA】

一部作って、2月にも配ります。2月にも10組配ります。

【卯月委員長】

最終的にかかるたというのは、10組作って差し上げるという理解でよろしいですね？

参考に聞きましょう。青木さん、なんで「もうちょっと!」と思ったのですか？

【青木委員】

4年生でこんなこと言っちゃいけないかもしれないですけど、質問されたあと答えようとする時に、ちゃんと計画を立てていたのかなあとと思う場面があったからです。

【卯月委員長】

質問に対して答えている時に少し戸惑ったり相談したりしていたのが、同じ小学生として、ちゃんと計画していたのかなあと疑問に思っちゃったということですか？

【坂本委員】

関連してですが、今回の審査のポイントというのは、「地域にとって必要なこと」「チームワークと発表の工夫」「計画性」ですが、確かにお聞きしてしましたら、これから具体案をどんどん考えていくということですので、今の段階ではまだ、そこまで具体的なところは考えられていないのではないかなと。これは、まあ当たり前ではないかなとも思います。ただ、やろうとしていることは地域にとっても非常に支えになるかと思うところもありますし、これからの熱意も含めて、どういう風にやっていかれるかその気持ちをお聞かせ願えたらなと思います。

【APA】

私は旭のまちに、高齢者や困っている人がいたら、助けられるまちにしたいです。

僕は旭のまちは、交通ルールを守って、安心安全なまちにしたいです。

私は旭のまちが、事故のないまちにしたいです。

私は旭のまちが、あったかハートなまちにしたいです。

僕は旭のまちが、事故が少なくなるようなまちにしたいです。

【卯月委員長】

ありがとうございました。

他に大人の審査員の方でも構いません、このグループに何か意見やコメントなんかありますか？

【古谷副委員長】

今回初めて参加されたということで、この大勢の中でプレゼンをするということに慣れていないということと、色んな質問に対してスムーズ答えられなくて、すごく動揺もあったのではないかと思います。この取組が非常に良くて、子どもらしい答え方もできていたので、この機会を学習の場として、来年チャレンジしてもらおうときは、今回のことを学習して上手にやれるように、頑張ってもらい

たいなと思いました。

【卯月委員長】

僕は交通安全の問題が出てきたことに、とても評価をしています。実は冒頭、副市長から「ドイツでも似たようなものもあって」というお話もありました。僕もずっとドイツにおける子どものまちづくりについて調べてきていましたが、交通安全の話と、学校の中の話と、遊び場の話。これが3大テーマなんですね。日本ほど「防災」という意識がないということもあって、実は「交通安全」はトップなんですよ。これまで、こうちこどもファンドであまり交通安全の話題は出てきませんでした。しかし今、僕が他のまちでも子どもと一緒にまちづくりをやっていると、「通学路が安全じゃない」とか「学校の周辺は危険だ」とか、そういうのは結構みんな思っているんですよ。ただ、なかなか学校とか地域とか役所とかが言い出してくれないから、子どもたちももうそれが当たり前だと思っている。まず「交通安全」に対するテーマを出してくれた。それを1年目でどこまでできるか分からない中、小学生の子どもたちが言い出してくれた。僕はこのテーマ出しについては、素晴らしいと思います。

一宮家おもてなし隊

【卯月委員長】

それでは、今度は2票「もう少し質問がある」という一宮家の話を聞きましょう。

【大原正裕委員】

活動予算の支出についてですが、給水用ジャグ・飲料水代・氷代とありますが、保管場所は決められていますか？

【一宮家】

学校のおもてなし隊のブースが生徒会室にあるので、生徒会室に置こうと思っています。

【押川委員】

活動に協力してもらう地域の方、青少年育成協議会の方とかは本当に協力してもらえるのでしょうか？

【一宮家】

はい。その方たちと先日、こどもファンドの計画を立てる時に、そのことについても話をしてあります。

【大人サポーター】

コミュニティの活動で「一宮の歴史を語る会」というのが同じ時間帯に開かれるので、代表と事務局の方のから、本日のこの場に「行けなくなった」という連絡をいただきました。コミュニティの会でも、こういう活動を一宮中学校が主体で始めたいと思っているということで、すでに町内会の方々にも紹介をしてもらっています。

【坂本委員】

耳に挟んだことですが、例えばゴミ出しに行った際などに、高齢者の方が子どもたちから挨拶されたり、全然期待していないところで、思いがけず、そういう声掛けをしてくれたら非常に嬉しいというようなお気持ちを聞いたことがあります。自分たちから主体的に挨拶とかをやっていくというのはこれからすごく大事。特につながりという面でも、非常に大事じゃないかなと思います。ぜひ頑張ってもらえたらなと思います。

【西田委員】

地域で協力してくださる団体さんは、どれくらいの規模でどれくらいの人数いらっしゃいますか？

【大人サポーター】

総会で名簿を見る限りでは、各町内会長さんなどが入っていて、一宮小・一宮東小校区総勢で何名ほどですか？

【事務局】

たくさんいます。

高知南高校 QOL の会

【卯月委員長】

それでは、QOL の会いきましょう。

【西田委員】

プレゼン後の質疑応答でも答えていただきましたが、「とりあえず 1 年目は 1,000 枚作って試してやってみて、2 年目以降本格的に」というようなニュアンスに受けてしまったのですが、どうなのでしょう？

【QOL】

現在予定しているのは、カードを作ってモニタリング用として配布をして、そこから改善していけるところがあれば、アンケート内容などに書いてもらい、それを新しいものに活かして、より多くの人に手にとってもらえるようにしたいです。

【西田さん】

では、モニタリング前後合わせて 1,000 部ですか？

【QOL】

モニタリング用として 1,000 部、初めに配布するものです。

【卯月委員長】

それじゃ、今年は 1,000 部配布して、それがどの程度有効かとか使いやすいかを確認して、来年度、改善したものを作るという認識でいいですか？それとも 1,000 部の中で、例えば 100 部作ってみて、使っていただいて、改善して、残りの 900 でもっと完璧なものを作ろうというように、1 年の中での活動として考えたほうがいいのか、どちらなのかな？

【QOL】

エンディングカードはずっと持ってもらうものなので、1 枚のクオリティを高くしたいと思ったので、まずは枚数を増やすよりも、なるべくいいものを作って使ってもらうことで、知ってもらおうと思いました。1,000 枚は少ないと思うのですが、その 1,000 枚でいいものを作って、広めていきたい。

【西田委員】

配布についてお聞きしたいです。モニタリングの前に少し作って、モニタリングをして改善したものを残りの枚数で広めていく。そういった感じの受け取り方でいいですか？

【QOL】

はい。そうです。

【卯月委員長】

モニタリングを含めて 1 年かけて完璧なものを目指そう。現段階ではそう考えているということですね。

【松下委員】

エンディングカードのカード代ですが、印刷費はすでに含まれた状態で60円ですか？それとも別に、印刷費はどこかに含まれているのですか？

【QOL】

印刷費込みです。

【梶委員】

私から1つ質問です。カードの内容を検討するにあたって、どういった方々がこの内容を検討することになっていますか？あるいは、大人のサポーターの方も入るのか、皆さんだけのメンバーで考えるのか教えてください。

【QOL】

内容については、病院の看護師や医師に見てもらって、そこから詳しい内容を決めていきたいと思っています。

【梶委員】

3年生の皆さんの思っていること、考えていること、そういったことを一緒に考えていくといった感じですか？看護師や医師が考えたものを、どういう風にカードにしていくのですか？

【QOL】

私たちが考えたものを見てもらって、こういう内容でも大丈夫なのかどうかを見てもらいます。

【卯月委員長】

質問という形でしたが、想像するにアドバイスの部分もあって、先ほど「できるだけ完璧なものを作って皆に見てもらいたい」という言葉から、準備の段階で後戻りがないように、内容やレイアウト等いろいろ工夫して、良いものを作ったほうがいいのでは？あまり拙速に印刷と考えるより、準備の期間・検討する期間をかなり時間をきちんと取って、もちろん配布も重要だけれども、そういうスケジュールがいいんじゃないかってことだと思うんです。

【梶委員】

質問形式の言い方をしてしまいましたが、ぜひ最初の段階から、看護師や医師の考えだけではなくて、チームのメンバーと一緒に意見を出し合って作ってってもらいたいなあとという風に思います。

【卯月委員長】

僕は、とてもこの内容に感動したのですが、発表内容もテーマとしても新しい。ただ、高校3年生の皆さんがなぜエンディングカードにこんなにまで興味をお持ちになって、ここまでやる気になったのか、きっかけを教えてくださいませんか？

【QOL】

私たちの学校では、授業の一環でマネジメント学習があります。そのマネジメント学習で「幸せな長生きについて」考える機会を持ったのですが、その時に認知症や病気で自分の望む最期を迎えることができない人がいるという現状を知って、意志を伝える機会がないのか、どうなのかということを考えて、エンディングカードを作成しようと思いました。

【卯月さん】

エンディングノートはありますというお話もありましたよね。カードというのは、臓器提供意思表示カードというようなものもありますよね。カードがいいんじゃないかと思いついたのは、生徒の皆さんのアイデアですか？

【QOL】

はい。

【卯月委員長】

そうですね、素晴らしいですね。日本で初めて、もちろん高知で初めてということなので、慎重にいろいろな人の意見を聞いて作ってくれたら、ありがたいなあ。良いものができあがるんじゃないかなあと期待しています。

【坂本委員】

欧米などでは、「バケツリスト」というものがありますが、バケツに乗って自殺をするというところから、遺言みたいなものを残しておき、今現在、自分が人生でやりたいこと、どんなことがやりたいのか、ずっと書き連ねてそれをリストにする。人生をいかに生きるべきか、それを個人の生き方にしていこうというような取組もあるようですので、個人の残りの人生どう生きるか、どう生きたいのかなど、あまり縛らず考えていただくような方法もあるんじゃないかなというふうにも思います。それとエンディングというのが終わるというイメージに取られるんじゃないかなっていうのもありますので、もう少し希望のあるようなところもあっていいのではと思うところもありました。検討していただけたらなあと思います。

【卯月委員長】

色んな意見がきくとあると思うので、準備の段階では、いろいろな方、いろいろな世代からの意見を聞いて進めたらいいんじゃないかなあとと思います。

NSP (ナンカイ サバイバル プロジェクト) お助け隊

【卯月委員長】

それでは、次NSPにいきましょう。

【大原正裕委員】

防災のパンフレット・チラシを作成されるということで、カラーペーパーを結構な量で購入されるとあるのですが、その印刷方法については、業者に依頼するのでしょうか？

【NSP】

はい。業者に依頼する予定です。

【古谷副委員長】

こども審査員から質問が出た中で、「新しい取組は何ですか？」という質問があり、その答えに「にわか」という文言が出てきて、これは何なんだろう？自分で理解ができないところがあったので、それを教えて下さい。

【NSP】

まとめたものを読み上げます。「にわか」とは、江戸時代から明治時代にかけて路上などで行われた、即興の芝居で、にわか狂言の略だと言われています。この「にわか」を、先日地域で行われた長宗我部元親祭で知りました。「佐喜浜にわか」の台本は、江戸時代後期のものがあり、高知県の無形の民俗文化財に指定されているそうです。これは、一人ひとり個人の力では変えることが難しいと思われる事柄を、普段言うことができない人たちに向かって、ユーモアを交えることで多くの人たちの心を捉え、地域を良くする原動力のひとつになると言われています。多くの伝統文化がなくなろうとしている中、先人たちが演じた文化を私たちが受け継ぐことで、元気のある地域にしていきたいと思っています。今から、さわりだけ少し見てもらいたいと思います。

<僕は、南海中学校生徒会長しゅう、武田龍弥です。バスケットボール部のキャプテンをやっています。この学校の取組は、「学びあい学習」と「防災学習」の2つをやりよるけど、みんなは知っちゃうかね。「防災学習」は、自分たちの地域を守るため。犠牲者を0にするために行いゆう。「学びあ

い学習」は、一人ひとりの学力を保証するために、みんなあで学びながら学習することをやりゆう。>という感じです。

【卯月委員長】

素晴らしいですね。ありがとうございました。

【松原委員】

先程の、「にわか」素晴らしいですね。素晴らしいの一言です。

瀬戸東町 1・2 丁目元気キッズ

【卯月委員長】

それでは、瀬戸東町 1・2 丁目元気キッズについてです。

【西田委員】

今回最後の助成になるということで、助成金の申請額がピッタリ 20 万円ということですが、来年からも、野菜を売ったりして収入を得て、それで活動されていくということですが、いきなり助成金の 20 万円がなくなってしまう状況で、続けていけそうですか？

【大人サポーター】

今と同じ活動をしていくのはなかなか難しいですが、2 年間この活動をやった中で、地域の方とコミュニケーションをとりながらやってきました。我々もこの交流の輪をこれからも続けていきたいという意志もありますので、同じような形はできないかもしれませんが、野菜を通じてというのも難しいかもしれませんが、何らかの方法で、交流や助け合い・支え合いというのを続けていくというのは考えています。

【卯月委員長】

西田さん、期待しての質問だと思います。このこうちこどもファンド審査会は第 4 回なんですよ。元気キッズさんの応募は第 2 回からの応募で、今回が 3 度目ということで、今のルールでは 3 度目でおしまいということ。来年以降、いろいろ問題があるかもしれませんが、それは決して元気キッズだけの問題ではなくて、制度を作った我々の問題でもあるので、自立という言葉はハードルは高いかもしれませんが、いろいろなアイデアを出してうまく継続していけるようなものを作ってほしいなと思います。

「もう少し質問がある」や「もうちょっと！」のシールが貼られていたものについては聞きましたので、他に何かあればお願いします。

提案など

【家古谷委員】

南高校 QOL の会さん、高齢者の割合も増えていくということで、できるのであれば後輩たちにもこういう活動を伝えて、来年度も継続をしていくという形を取っていただけないかなあという提案です。

【QOL】

そのことについては、また検討します。

【大原正裕委員】

Food Treasure Hunter in Namegawa！さんに提案ですが、地域の方々だけではなく、学校の中にも料理を提供してあげたりして、広めていってもらいたいと思います。

【Namegawa!】

そのことですが、お茶会と言っても私たちと地域の方が交流するだけでなく、行川中学校と地域の方の距離が少し遠く感じているので、それを縮めるために、この Food Treasure Hunter in Namegawa! はできました。参加してくれる人をたくさん募集して、お茶会だけでもいいので、学校の人を呼んで、みんなが仲良くなれる、元気な行川を作っていけるように頑張っていきたいと思えます。

【卯月さん】

昨年の結果報告書にパソコンで作ったとあったのですが、結構良かったですよ。もっともっとたくさんの人に見てもらった方がいいんじゃないですかというのが、みんなの意見だと思います。今回は、より力をいれて印刷されるということで、場合によっては100円で売るとかね。売れるぐらいのものを目指すくらいしても、素晴らしいと思います。

【西田委員】

市役所の中にも置きたいという話を聞かせていただいたのですが、高知市役所は新庁舎になるということで、そちらに掲示していただけたら、行川の良さも伝わるのでいいのではないかと思うのですが、その辺、市役所の方はいかがでしょうか。

【Namegawa!】

そこまでは考えてなかったもので、すごくいい意見だなと思います。市役所の方、ぜひよろしく願います。

【事務局】

新庁舎が平成30年4月くらいにできますので、その間どうするかという問題もございます。我々が担当しております、コミュニティセンターが2ヶ所・ふれあいセンターが14ヶ所ございます。そこにはぜひ配置をしていきたいと思えますので、また資料を持ってきてください。

【卯月さん】

とってもいいアイデアだなと思いました。こうちこどもファンドの成果が、どういう形か分かりませんが、新庁舎になった時、こどもファンドをやってきた成果、こどもファンドの紹介ができるコーナーがあってもいいかもしれませんね。

大人審査員から一言

【卯月委員長】

大人審査員から一言ずつ願います。

【古谷副委員長】

子どもたちが、非常に郷土を愛して、良いものを残していきたいという思いを、この公開審査の中で感じました。本当に郷土愛の強い子どもたちが高知の中にいて、私たちも心強いと思えます。例えば、先ほどの Food Treasure Hunter in Namegawa! も郷土のおいしい料理を広めたい、残したいという気持ちを、大人も汲み取って、学校給食へ一部残していくものを取り入れるというような、子どもがこんなに一生懸命考えているのであれば、大人としても何か一歩踏み込んだところをやらなければいけないんじゃないかと思いました。やはり「食育」というのは大事なことで、健康な子どもを育てるということも「食育」。健全な精神を育てるのも「食育」。そのためにも、こういう取組、子どもたちが考えてきた意見を取り上げていただいて、全部が全部できないだろうとは思いますが、子どもたちが考えたことの中に、大きなヒントがあるのではないかと思いました。

【梶委員】

今回初めて大人審査員として参加させていただきました。皆さんの地域を良くしたいという思いを、審査する側・される側、両方が自分の言葉で答えているところが、とても素晴らしいなと思いました。私もこれまで、色々な助成プログラムに関わってきた中で、審査する側・される側が一緒になって、地域を良くしたいという気持ちがとても大切で、いろいろな質疑応答をしているのだと思います。今回の6つの申請は、思いが伝わる内容だったと思います。

【坂本委員】

本当に素晴らしい発表で、感動しております。総合的な取組だなあと感じておまして、これをひとつずつやっていけば、高知市はすごく素晴らしい都市になっていくだろうなあと期待しております。ただ、やはり自立をしていくのは、なかなか難しいことなので、この中で制度として取り組めることはないかということこれから考えていかなければならないかなと私自身はそう思っております。ぜひ皆さん、これからも頑張ってくださいなと思っております。

【山川委員】

では、まだ審査の途中ということなので、私からはちょっと応援をさせていただきたいと思います。今日、話を聞かせていただいて、一番最後に発表していただいた旭小学校の5年生、本当に感動しました。いろいろな質問に対しても、一生懸命自分たちで考え、小学校5年生の子どもたちの中で精一杯考えて、質問に真面目に答えようとしている姿、これはこどもファンドを4年間やってきましたが、毎回一番感動する場面です。今回も、みなさんが回答している姿を見ていると、涙もろくなり、涙がポロポロ出てきました。その回答のなかで、「校区の中にある保育園の名前を教えてください」という質問に、ちゃんと4つしっかり覚えて答えてくれていました。これは、やはり地域のことを本当に考えて、これから保育園の子どもたちにかかるたを届けてあげたいと真剣に考えているんだということがすごく伝わりました。なので、とっても応援しています。

【松原委員】

私は4回これに参加していますが、発表する側も、審査する側も含めて、これからの高知の将来は明るいなじゃないかなあという感じを持ちました。高知市の子どもたちが、いろいろな問題を考え、地域を考えて、地域を何とかしようとする。そういった思いが伝わっていると思います。高知市の教育長をやっていて良かったなという思いを持っております。

【卯月委員長】

それでは、時間になりましたので、こども審査員・大人審査員の意見交換をこれで終了します。

【 審査結果発表 】

☆審査結果発表

古谷審査副委員長

皆さん、おめでとうございます。今日は6団体の皆さんに、見事なプレゼンをしていただき、いろいろな厳しい質問や意見にもちゃんと答えてくれて、皆さんの熱意と熱い志が、こども審査員・大人審査員にも伝わってきました。

そしてその結果、この6団体すべてに助成がされることに決定しました。

こども審査員の皆さんは、先週の日曜日にも模擬審査というのを行いまして、「どんなに審査をすればいいのだろう」と4時間近く練習をしました。その練習の結果が、本日の本番の審査会に、いろいろな意見や質問を投げかけて、十分に質問の内容も、皆さんがやっていきたいということも、理解できたと思います。

そしてその結果、応募された6団体すべてが助成と決定しました。本当に、おめでとうございます。

これで、1年頑張ってもらおうのですが、この1年に留まらず、また来年も再来年もこの素晴らしい活動を継続していただけるように、地域の大人たち、子どもたちも巻き込んで頑張っていたきたいと思います。



【審査結果】

助成団体	助成金額
NSP(ナカイ ガバル プロジェクト)おたすけ隊	200,000 円
一宮家おもてなし隊	200,000 円
瀬戸東町1・2丁目元気キッズ	200,000 円
高知南高校QOLの会	185,000 円
Food Treasure Hunter in Namegawa !	200,000 円
APA (あったかハートで安心・安全プロジェクト Asahi) 守るんジャー	200,000 円

☆子どもファンドアドバイザー・子ども審査員サポーターからの感想発表

【畠中洋行さん】

今までこの公開審査会では、一言も口を出さずずっと我慢しておりました。というのも、この公開審査会までに、すべての団体のところへアドバイスに入っていれば、全部の団体に対して応援のメッセージを言えるのですが、毎年全部に入っているわけではありません。今回も6つの団体のうち3つの団体にアドバイスに入りました。3つの団体を含めて、プレゼンテーションをしている姿、質疑の受け答えをしている姿、こちらがドキドキしながら聞いておりました。結果的には6つの団体の皆さんに、助成が決定したというのは、本当に嬉しく思っています。

僕自身のアドバイザーの役割ですが、申請までの間、一緒に考え方を整理します。申請を出した後、公開審査会までに、こういったプレゼンをするのか悩んでいる時に一緒に、考え方を整理します。これから、助成が決まった後、皆さん方が、実際に計画を立てていることを実行してみようとした時に、考えたとおりがうまくいかない場合もあるかもしれません。これはどうしたらいいかなと悩んだときは、ぜひ声をかけてください。一緒にそこで悩みながら、どうすればそこをクリアできるか、あるいは、もっと活動範囲を広げていけるかもしれないというアドバイスもできると思います。助成が決まった後も、声をかけていただければアドバイスに入っていきます。僕自身、皆さんのこれからの活動を楽しみにしていますので、これからも頑張ってください。今日は皆さん、おめでとうございます。

【川元雅一さん】

6つの団体の皆さん、おめでとうございます。今日のプレゼン、準備も含めて色々大変だったと思いますし、どんな質問がくるか分からない状態での、プレゼンの後というのは非常に緊張したことだろうと思います。それに対しても、自分たちの言葉で返している所に、皆さんの本気さが伝わってきたと思います。私はサポーターとして、入らせていただきましたが、ここにいる子ども審査員は、本当に皆さんを応援しようという立場で一生懸命質問をしてくれたと思います。すべての審査員が、一生懸命審査をしてくれていたと思います。お疲れさまでした。ありがとうございました。

☆子ども審査員からの感想発表



【大原弘靖委員】

2回目の子ども審査員をやらせていただきました。今回のプレゼンでは、どの団体も良い発表だったので、どんどん高知が良くなっていくことが分かりました。今日の発表を聞いて、自分たちもどんどん意見を出し合って、どの団体にも活動を手伝っていけるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。



【松岡委員】

本日は皆さん、お疲れさまでした。プレゼンとしては非常にクオリティーも高く、皆さんの本気さが伝わってくるもので、素晴らしかったと思います。中身としては、個人でも私も参加したいなあと思うものが多く、ただそのときに団体名に地元名が入っていたりするので、そこがちょっと引っかかるところでもあります。でも、分かりやすくできていいと思います。本日は、有意義な時間をありがとうございました。



【宇賀委員】

今年度で3回目の子ども審査員となりました。全団体、助成決定おめでとうございます。3月活動発表会、楽しみにしています。



【西田委員】

6団体の皆さん、お疲れ様でした。今回3回目の子ども審査員をやらせていただいています。3年目にして思ったことが、今までは自分の地域に着目したことが多かったと思うのですが、今回公開審査会をさせていただいて、高知市全体に広げていきたいという考えがあったことが、すごく嬉しかったです。自分の地域だけに留まらず、他の地域とも仲良くしていったらいいなと思っています。活動の中で、改善していけるようなことがあれば、それはどんどん良い方向に変えていって、良い活動・有意義な活動にしてもらいたいと思います。本日は、お疲れさまでした。ありがとうございました。



【押川委員】

今回初めて、審査員をさせていただきました。先週初めて、皆と顔合わせをして、本番どんな風になるのか、緊張と不安、楽しみもありました。6団体の皆さんの活動の内容は、すごく良いことだと思うので、3月に行われる発表がとても楽しみです。本日は、お疲れさまでした。



【青木委員】

上から目線だったかもしれないですが、こども審査員サポーターの方に助けられて、6団体の審査を頑張ってきたので良かったです。



【松下委員】

今回2回目の審査員だったのですが、私より年下の人も高知のことを良くしようと思って、ここまで考えているというのを、こども審査員を通して伝わったので、すごく良かったです。



【大原正裕委員】

本日は、お疲れさまでした。今回で2回目ですが、今回また新たに参加していただいた団体の方々の話や、昨年から引き続き参加していただいた団体の話を聞いていたら、高知を良くしたいという思いがよく伝わってきて、内容もとても素晴らしいものだと思ったので、これからも頑張ってください。本日は、ありがとうございました。



【森本委員】

6団体の皆さん、プレゼンお疲れさまでした。そして、おめでとうございます。私は毎年、こどもファンドを見ていますが、今年は工夫している団体が多く見られたので、すごいなと思いました。3月の報告にも期待しています。



【田部委員】

皆さん、おめでとうございます。皆さんの、高知を良くしたいという気持ちが伝わってきました。これからも期待しています。お疲れさまでした。



【家古谷委員】

皆さん、今日はお疲れさまでした。3年目で1番長くやっていて、最年長で最後になるということで、非常に嫌なんですけれども、締めをさせていただきたいと思います。皆さん、悔いのないように全力投球で、3月に会いたいと思います。今日は、例年にないぐらいスケジュール通りに進みましたが、私ども審査員は、審査項目について結構な時間を費やしました。毎年同じような意見が出ますが、去年と同じものにはしたくないということもあって結構な時間を費やしてきました。今年は、3年目が3人、2年目が7人、1年目が1人ということで、全力でやった分、皆さんも全力でやっていただいて、3月の報告会を悔いの無いようにさせていただきたいと思います。皆さん今日は本当におめでとうございます。

☆講評

卯月審査委員長



長い時間お付き合いいただきありがとうございました。何人かの審査員が言っているように、こうちこどもファンドの公開審査会としては4回目になります。最初に副市長も言われたように、日本でこどもファンド、要はこどもが申請して、こどもが審査するというものは僕の知る限り、高知が唯一であります。そういった意味で、正直に言うと、子どもが応募するのは大人がある程度サポートすればきるだろう、ただこどもが審査できるのかというのは準備の段階で相当議論をしました。市役所の方は当然ながら、不安もいろいろ言われました。でも僕の立場は絶対できる。言い続けて、何の根拠もないのに言い続けました。

今回4回目を体験しまして、ああそう言い続けて良かったなと思いました。これまでの1回目、2回目、3回目もちろん素晴らしかったのですが、でも今日の4回目は今までのいろいろな課題や時間配分等、改善に改善を重ねてきて、今日に至っているということを含めて考えると、素晴らしい会になったと思います。何が素晴らしいかと言うと、応募する側も子どもたち、審査する側も子どもたち、その質疑応答にすべてが凝縮されていると思います。

こども審査員に3回目の審査員が3人、2回目が7人。そのことが僕はとても重要だと思います。任期としては、1年ですが、もう1年やってみたい、やりたいということで2年目3年目に至っています。今日は、大人審査員はもう来年からいらないのではと思うくらいの印象でした。具体的に言うと審査員は何週間も前から申請書をきちんと読んで、あれ？って疑問のある所は本当に細かい所でも、メモしてこれを質問しようって来るんですね。細かい所が良いとか悪いとかではありません。例えば氷代は何に使うのって、なんとなく大人だったら想像して、あえて聞かない所もきちんと聞いている。そういう姿勢を忘れてはいけないので、それは子どもの良い所ですね。でももっと良いなと思ったのは、申請書をちゃんと見て、質問を用意してくるというのに加えて、今日初めてプレゼンテーションを聞いて、申請書には載っていないような質問をするということです。これは準備とかではなく、きちんとプレゼンテーションを聞いていないとできない、さらにプレゼンテーションを聞いて質問して回答してきた、その回答に対してさらに質問するというのはなかなかできません。まして小学生が高校生に質問するなんていうのは、なかなか今の学校の中では考えられないのではないのでしょうか。そういったことが、高知の地域の中で行われているのです。両方とも高知を良くしたいから、真剣に聞き、真剣に答えて、疑問があったらまた質問する、そのことがとても重要です。ずっと申し上げていますが、これは審査会じゃなく、応援会なんですね。要は落とすことが目的ではありません。「高知のまちを良くしよう」という主旨に合致するプロジェクトとして、スタートしてほしいかどうかを見ています。みんな応募していただいたものはスタートしてほしいのですが、ただちょっと主旨からずれている、お金の使い道がどうかとか、ちょっと大人目線じゃないかなとか。大人のサポートを受けることは絶対必要なんですけど、こどもの目線がなくなったら困るので、こども審査員たちはそれがあのかなということを見て、こうなったらいいな、こうなったらきっと良くなるよと応援する会なんです。今回応募していただいた6団体に、すべての審査員が応援するというメッセージを結果として伝えられたのは、素晴らしかったと思います。

もう一つ、特徴立ったのは他の自治体で大人のファンドのお手伝いをしていて思うのですが、プレ

ゼンテーションが、当然ながらだんだんうまくなっていくんですね。うまくなっていく中で、いろいろな演出があります。今日は、着ぐるみが出てきたりヘルメットが出てきたり、ユニフォームが出てきたり、演劇仕立てが出てきたり、あるいは演奏を含めて歌が出てきたり。プレゼンテーションの限られた時間をうまく使っているものが増えてきました。これは、実は単なる演出じゃないかって思われる方も一部にいるかもしれませんが、そうではなくプレゼンテーションというのは、文書で書くのが申請書ですが文書では伝えられない、それを考えてきた子どもたちが前に出て、人に伝えるというのがどれだけ難しいことかっていうことを体験するわけですね。申請書に書いて、審査員も分からないまま合否が決まる助成金の制度なんて、日本中に山ほどあります。審査員さえも公表してないものが、大人の世界ではとても多いんですね。落ちた理由を教えてくださいれば来年頑張るぞという気になるのに、落ちた理由も教えてくれない。この「こうちこどもファンド」はそうじゃありません。プレゼンテーションする側も人に伝えるということで、新たな表現方法を取らなければいけません。短い時間で分かりやすい言葉で伝えたり、あるいは演技を使ったり。人にあることを伝えたり、人を動かすときには、相手は何をやったらそういう気持ちになってくれるかなと、考えなきゃいけないわけですね。好きなことをやっていれば良いってわけではないですね。そういうことを小学生・中学生・高校生がいろいろ思考錯誤を繰り返して、こういう場で発表して、それで成果も出る。こども審査員も、応募してくれる子どもたちも短い時間ではあるけれどもこの空間の中で、それがパーンとぶつかりあうこの時間・空間はとても素晴らしいと思った次第であります。

最後に申しあげたいことは、我々大人審査員もそうですが、主役は絶対子どもですが、こういう場を作るとか、進行をするとかはやっぱり大人の役割なんですね。大人がきちんとお膳立てをして、子どもがのびのびと発言したり、質疑応答できたり、その場を作るのは絶対大人の役割なんですね。大人が前面に出ないでサポートする、こどもたちの自主性を伸ばせる、その大人のサポートのしくみというのが、この「こうちこどもファンド」の大人の役割として極めて重要です。まさに大人が支えるこの「こうちこどもファンド」をこれからも応援していきたいと思っています。それぞれのグループが、市役所に対してこういうことをお願いしたいというのを3月までの活動の中でどんどん言ってください。大人はそれをサポートすることが仕事だし、それが義務だと思っています。先ほど、アドバイザーの言葉にもありましたが、みんなが具体的な活動をする中で、どっちにしようかなと悩むことがあると思いますが、畠中さんにアドバイスを受けて、良い活動をぜひ続けてください。

最後に入口に、この「こうちこどもファンド」の主旨に賛同していただける方は、募金箱というのがあります。最初に副市長がお話されていましたが、ぜひ大人がこの「こうちこどもファンド」を支えるんだというご主旨を理解いただいて、浄財を少しでもいただければ幸いです。

今日は長い時間ありがとうございました。

資料編

★高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

★平成 27 年度公開審査会アンケート結果

- 一般来場者
- 応募団体向け（対象：子ども）
- 応募団体向け（対象：大人サポーター）

【こうちこどもファンドへの寄附者の皆さま】

(平成27年8月末日現在)

《企業・団体》※50音順

●有限会社大石電機	代表取締役	大石	典明	様
●株式会社片岡電気工事	代表取締役	片岡	雅夫	様
●和建设株式会社	代表取締役	中澤	陽一	様
●株式会社岸之上工務店	代表取締役社長	岸之上	憲一	様
●一般財団法人高銀地域経済振興財団	理事長	森下	勝彦	様
●株式会社公職研	代表取締役	大田	昭一	様
●高知黒潮ライオンズクラブ	会長	清水	源太郎	様
●同上	会長	依光	聖一	様
●高知県青年読売会	会長	尾崎	知宏	様
●高知市職員労働組合	執行委員長	明坂	浩	様
●高知市まちづくり未来塾	代表	岡田	法生	様
●高知市旅館ホテル協同組合	理事長	宮村	耕資	様
●高知スタンダード石油株式会社	代表取締役	手嶋	邦彦	様
●株式会社高知タマモ	代表取締役	濱田	泰巨	様
●高知南ライオンズクラブ	会長	竹内	靖	様
●高知民謡クラブ	代表	豊永	止子	様
●国際ロータリー第2670地区	ガバナー	関	裕司	様
●三愛石油カスタマーサービス株式会社	代表取締役	池田	宜弘	様
●三共工業有限会社	代表取締役	飯間	俊一郎	様
●株式会社四国清掃工業	代表取締役	森国	勇	様
●株式会社四国相互手形センター	代表取締役社長	矢野	利平	様
●株式会社四国ポンプセンター	代表取締役	西村	倫彦	様
●医療法人仁栄会 島津病院	理事長	島津	栄一	様
●株式会社シンテック	代表取締役	田所	伸雄	様
●株式会社セイミツ	代表取締役	小林	正典	様
●株式会社双電社	代表取締役	堅田	英信	様
●東京テクニカサービス株式会社ドコモショップ愛宕店	代表取締役	高橋	吉久	様
●西村商工株式会社	代表取締役	西村	倫彦	様
●パシフィックソフトウェア開発株式会社	代表取締役	中谷	正彦	様
●福留開発株式会社	代表取締役	大場	智公	様
●株式会社豊栄電気工事	代表取締役	吉村	保利	様
●株式会社松井ビル	代表取締役	松井	誠一	様
●丸仁商事株式会社	代表取締役社長	下元	康弘	様
●よこせと・まちづくり市民会議	代表	江口	富博	様
●読売センター高知長浜	代表	中村	治	様
●依光内科クリニック	院長	依光	聖一	様
●ほか1企業、1団体				

《個人》

- 梶原 太一 様 (高知市在住)
- 田所 伸雄 様 (高知市在住)
- 久川 憲四郎 様 (横浜市在住)
- 山本 吾一 様 (高知市在住)
- そのほか6名の皆さま

【発行】

高知市 市民協働部 地域コミュニティ推進課

〒780-8571 高知市鷹匠町2丁目1-43

TEL/088-823-9080

FAX/088-824-9794

<平成27年9月発行>